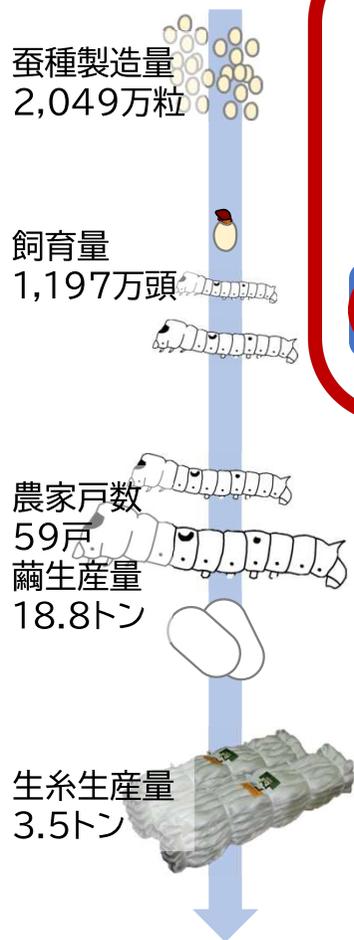
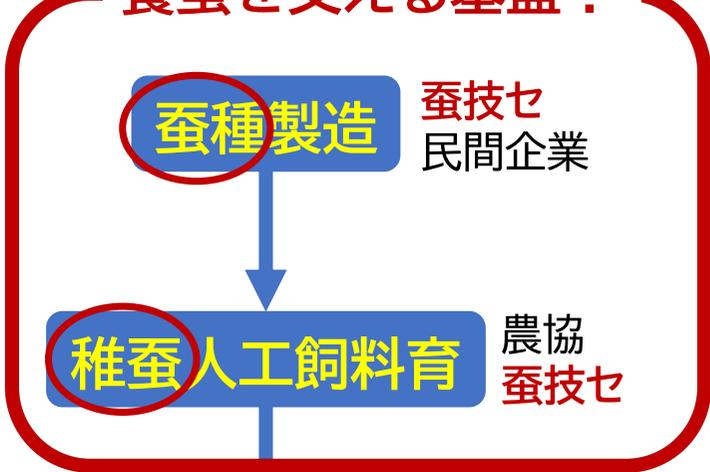


事業内容

本県のR5実績



養蚕を支える基盤！



- 近年の**猛暑の影響**により原蚕種*の飼育が困難
 - 蚕卵の量や質の確保が不安定
 - 原蚕種が途絶える危険性
- **気候変動**や**品種の多様化**が稚蚕人工飼料育に影響
 - 農家に配布する稚蚕の品質も不安定



*原蚕種：一般に農家が飼育する蚕の親

しかし



- 現状の原蚕種飼育蚕室は暖房設備のみ、広さも不足
- 人工飼料育研究を実施する施設2棟は**老朽化(築50年)**により**天井崩落、設備の修理不能**

そこで

- 空調設備が整った**原蚕種飼育蚕室**及び**人工飼料育研究棟を新築**



繭生産量の確保と 企業と連携した**新たな蚕糸業の展開**につなげる

「なつこ」の例

現状

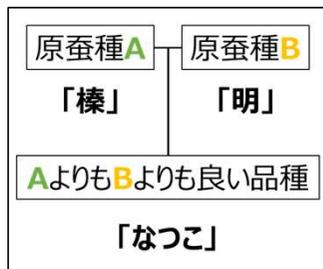
【蚕の飼育時期】

月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
蚕期	春	夏	初秋	晩秋	初冬	

「なつこ」導入

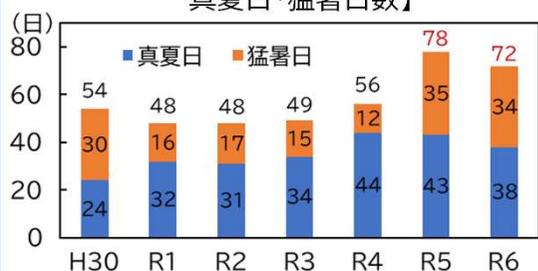
蚕を飼育する時期を季節ごとに〇〇蚕期という
「なつこ」は最も暑くなる初秋蚕期に飼育している

【「なつこ」の作り方】



原蚕種「榛」と「明」を交配して「なつこ」を作る

【前橋市の7-9月(92日間)の
真夏日・猛暑日数】

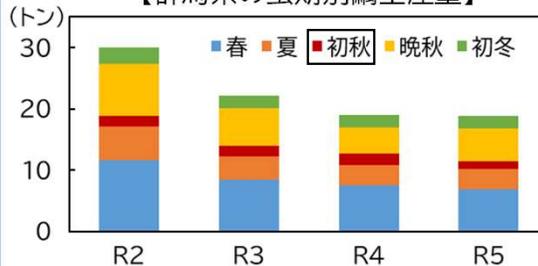


【群馬県養蚕農家の箱*あたり
繭生産量(初秋蚕期)】

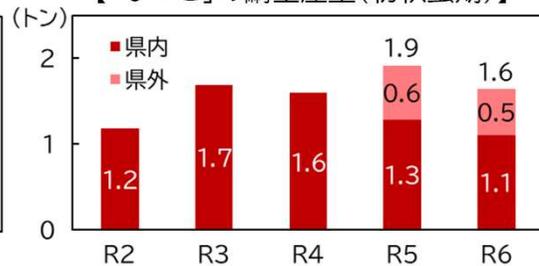


*箱:農家が飼育する数量単位
1箱に蚕種(卵)を3万粒入っている

【群馬県の蚕期別繭生産量】



【「なつこ」の繭生産量(初秋蚕期)】



課題

蚕種製造

原蚕種が特に
デリケートで飼育が難しい

猛暑も加わり丈夫な原蚕種を
飼育できず、卵の産みが悪い

飼育環境(温度)が整った
蚕室が必要

人工飼料育研究

現状の稚蚕人工飼料育方法では
「なつこ」の成育が揃わない

農家での労力が増加する
繭の品質、収量に影響する

「なつこ」に適した稚蚕人工飼料育
研究を早急に進めることが必要

施設が古く(築50年超)、空調設備が壊れ温湿度管理ができない

そこで

原蚕種飼育蚕室

人工飼料育研究棟

の新設が不可欠!!

効果

原蚕種が丈夫に育ち
質の良い卵がたくさん採れる

高品質な「なつこ」の卵を
増産できる!

「なつこ」に適合した
稚蚕飼育方法が確立できる

農家に配布される稚蚕の
ロスが減り繭を増産できる!

さらに

「なつこ」の蚕期拡大(初秋蚕期→夏・晩秋蚕期)
暑い時期の繭生産量の増加
企業養蚕や周年養蚕にも対応可能

蚕糸技術センターの業務内容と建物配置

<現状>

主な業務		主な使用建物	
試験研究	蚕品種の保存及び育成	C、D	
	蚕の飼育及び バイオテクノロジー	人工飼料	E、G
		新しい活用	H、L、M
		遺伝子組換えカイコ	H、J、L、M
技術普及	技術継承及び 農家指導	ぐんま養蚕学校 M 繰糸・蚕病 F	
	原蚕種の製造	C	
蚕種製造	普通蚕種*の製造	I、J、K	
	人工飼料製造	稚蚕人工飼料の製造	稚蚕人工飼料センター (高崎市金古)

*普通蚕種:農家で飼育される蚕の卵のこと

養蚕の基盤である蚕種製造と稚蚕人工飼料育を再構築するため、

- ✓ Iと同等機能を持つ「原蚕種飼育蚕室」
- ✓ EとGの機能を併せ持つ「人工飼料育研究棟」

を建設

